

部 長 松 永 恒 二 (小牧小)
森 川 智 之 (本庄小)
研究主任 加 藤 聖 也 (味岡中)
部 員 数 36名

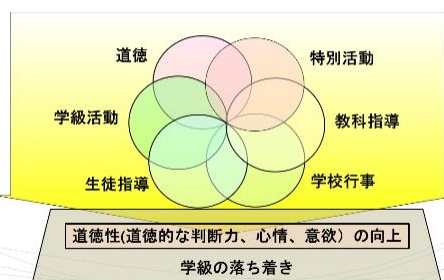
1 研究主題

「自己をみつめ、考えを深め、生き抜く力を育てる道徳教育」
～教育活動全体を通した気づきからの成長を目指して～

2 はじめに

本研究会では「教育活動全体を通じて道徳教育を行う」という共通理念を大切にしながら研究の実践をし、意見交換を行っている。道徳的諸価値を補充・深化・統合していくために、道徳科を要として、他の教育活動と関連させながら行う「パッケージ型小单元」を計画した。また、本年度より生徒の道徳的実践意欲の向上を目指す活動を取り入れ、研究実践に取り組んだ。

教育活動全体とつながりながら行う道徳教育



3 研究経過

教育研究会開催日に、道徳の授業実践や道徳科以外の道徳的活動などを持ち寄り、提案・協議しつつ研究を進め、それぞれ情報を交換することによって共通理解と連携を図った。話し合いが活発になるように、小中・学年ごとの少人数グループで研究主題について協議・検討した。研究日の開催日は、以下の通りである。

- ①4月25日 ②5月 9日 ③6月13日 ④7月11日 ⑤9月12日
⑥10月10日 ⑦11月14日 ⑧12月12日 ⑨1月16日 ⑩2月13日

4 研究の概要

研究主題に沿った活動として、各部員が「パッケージ型小单元」を計画し、実践した成果や課題の報告をした。ねらいを明確にした系統的な指導をするために、单元全体に関わるテーマを設定した上で、絡める教科、特別活動、行事などを精選して計画し実践をした。また、道徳的実践意欲の向上を目指す活動では、ふり返りを掲示したり、学級掲示で道徳的価値を再認識したりするような実践を行った。今年度実践し、意見交換をした「パッケージ型小单元」・「道徳的実践意欲の向上を目指す活動」の一例を以下に紹介する。

＜中学3年生の実践＞

○ 1学期のねらい

「関わりの力を上げる」学級・学年の中の一員であることを自覚し、学級や学校における生活をよりよくしようとすることができる。

ア パッケージ型小单元

【表1】を参照にして各学級の実態、学級活動や総合的な学習の時間との関連性を考慮しながら、道徳の授業を進めた。

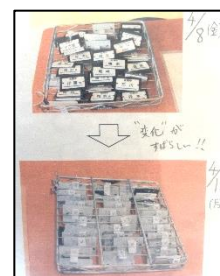
【表1】

教科	資料名・活動名	ねらい
①学級活動	学級組織決め	学級生活の充実や向上のため、生徒が主体的に組織をつくり、役割を自覚・分担し、協力しようとする実践意欲と態度を育てる。
②道徳	A「1、父の一言」	集団の一員としての役割やその責任を果たすことの大切さについて考えさせる。
③学級活動 創 GO	学級目標決めや関係づくり	学級や学校における生活をよりよくするために課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ろうとする態度を育てる。
④道徳	B「2、僕は友達を裏切ったのか」	真の友情を培うために必要なことは何か考えさせる。
⑤道徳	C「6、卒業文集最後の二行」	人間関係を形成する中で差別や偏見はなぜ生まれるのか考えさせる。

イ 道徳的实践意欲の向上を目指す活動

学級通信【図1】を発行し、教育活動全体を通した道徳教育によって生まれた気付きや認識の変容がもたらした言動の変化を教師が的確に捉え、広く共有するなどして道徳的価値の再認識を図った。

【図1】



○ 成果

ア 生徒のふり返りの中で「新学期だから、相手の良いところをたくさん見つけることで友情を深めていきたい。」や「数名が話し合って決めたことに意味はないから、全員が参加できる学級会の雰囲気をつくって、そこで考えたことや決めたことを大切にしながら生活していきたい。」などの記述があった。多くの生徒が道徳の授業で生まれた学びや気付きを学校生活に結びつけることができるようになった。

イ 【図1】の例に挙げた教室環境の整備について、一部の生徒が行っていたことをより多くの生徒が心がけることができるようになった。その結果、学級の環境が整い、雰囲気もよくなったように感じる。道徳的価値観の再認識を図ったことで、その良さが学級全体に伝わり、実践意欲の向上につながった。

5 今後の課題

多くの部員の先生が、ねらいを明確にした系統的な指導を行ったことで、「集団として良い変容が見られた。」「生徒が道徳を実生活に結びつけて考えられるようになった。」と実践結果を報告していた。その反面、教科と関連させることの難しさがよく挙げられている現状にある。今後も引き続き、実践の検討・協議を行っていききたい。